

暑熱被害の傾向について

- 近年、夏場の高温が拡大・長期化し、暑熱による家畜への影響が懸念。
- 家畜共済のデータから、夏季(7-10月)の乳用牛・肉用牛の暑熱による被害状況を集計。
※家畜共済に加入している家畜頭数のみ集計していることなど、下の表に記載した数値は国内全ての暑熱被害を反映したものではないことに留意。
- 猛暑の年ほど暑熱被害が多くなる傾向。

＜各年度における猛暑日観測日数・地点数と熱射病等による死亡・廃用事故頭数＞

		R1	R2	R3	R4	R5	R6
猛暑日観測地点数※1		3,188	4,747	2,481	3,141	7,070	10,233
猛暑日観測日数※2		42	52	49	61	75	82
死亡・廃用事故 頭数(頭)※3	計	983	1,388	757	1,103	1,645	1,548
	乳用牛	779	978	500	730	1,157	1,072
	肉用牛	204	410	257	373	488	476

＜地域別の熱射病等による死亡・廃用事故頭数(令和6年度)＞

		全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・ 四国	九州	沖縄
死亡・廃用 事故頭数 (頭)※3	計	1,548	23	110	269	67	165	131	248	528	7
	乳用牛	1,072	18	61	215	52	124	112	196	293	1
	肉用牛	476	5	49	54	15	41	19	52	235	6

資料: 気象庁HP、家畜共済データ(畜産局企画課・経営局保険監理官調べ)

※1 日中の最高気温35℃以上を観測した気象観測所の延べ数。

※2 日中の最高気温35℃以上を観測した気象観測所が1以上となった日数。

※3 家畜共済において、熱射病又は日射病を原因として死亡又は廃用事故となった頭数(R5及びR6は暫定値)。